第五節　婦人教育はどんな目標を立てて努力してきたか

婦人の生活環境からいって婦人自身の内部に芽生えた要求にもとづいて活発に活動しようとすればするほど、身近かなところで小人数が集って活動した方がずっと効果的だという考えに支配されて、たとえ名称は町村合併によっていかにも大きな婦人団体に変化したような団体であっても団体の内部で小団で活動しようとする傾向をもっている。この傾向はぜひ促進しなければならないし、指導者の養成とまた従来の幹部から中堅の幹部へと移していく必要に迫られ、事業の対象もできるだけそのために年令を下げていくことを申合せた。

(イ)　婦人団体内における小団活動の推進

(ロ)　婦人学級の内容と経営の合理化

婦人学級を大いに盛んにしていけば婦人会には余り大きな顔で出席できない若い主婦も出られる。そして若い主婦がのぞむ勉強をぜひ取り上げていきたいし、また婦人学級の経営をもっと公費でまかなわれるようにしていきたい。今までのように個人の趣味や団体の唯一の事業として経営されていく程度ではとても婦人学級の進展は見られなかろうという考えのもとに、婦人に呼びかけるだけでなく公民館を始めとする一般婦人教育の担当者にも呼びかけてきた。

一、実際にどんな事業を実施してきたか

1　北部地区婦人教育指導者会議

飯坂の婦人会館において九月十一～十三日約一六〇名が集って実施された。文部省としては

①　婦人団体の教育的働き

②　婦人学級の進め方―特にその教具教材について、および

③　その学習の発展について

以上の三つをねらいとしていた。しかし北海道および東北六県の婦人教育の現状は果して文部省のねらいを素直に受入れられる段階にあったろうか。たった二泊三日の会議に慾が深過ぎたきらいはなかったか。しかしどんな批判や反省があったとしても本県としては他県の方々をお迎えして新な情報を得、また新たな刺戟を受けて今後の婦人の教育と勉強の上に大いに役に立ったことを感謝している。なおそれにつけても県婦連の御協力に対し、ここでも感謝の意を表したい。

2　婦人指導者講習会

県南2、県北4（地元の計画）浜2、会津2、以上の十ヶ所で行われ、約八〇〇名の婦人が直接の参加者であったが、この外、学校の先生、公民館の職員、市町村教育委員会事務局の職員が参加して、婦人学級の将来のすすめ方を研究しあった。今まで活発でなかった白河市の中にも、公民館・学校・婦人団体が協力して婦人学級を新たに幾つも経営し始めたし、県下いたるところに同じような蠢動が見られる。

第六節　芸術文化活動をもっと広くするために

県内の芸術文化関係の振興発展のため、三十一年度に行われた事業は別表のとおりであるが、各管内別にとらえてみると左表のとおりである。

とりたてていえば、これらの事業は県内のすぐれた芸術文化の創造への勧奨をねらいとすると共に、それにもまして、より広く芸術文化の普及をねがいとしているわけである。

特に、昨年度から重視してきたことは、青年、婦人のグループ活動から発展しつつあるこの分野の育成助長を、いかにしてとりあげるかということであった。

このために、あるいは、余りにも安易な方法でしかないのだが、県文学賞の募集の一部門としての青少年の部を設けたり、合唱コンクール、演劇コンクール等にも青年の部を設けて行なってきた。

不幸、これらが、本年度においては未だ成功をみていないが、それにしても、文学にしろ、合唱にしろ、演劇にしろ、巾広い青年の芸術文化活動へのきざしがみえてきているのである。

例えば、別表の参加数には現われていないが、石川・耶麻・石城・相馬それに信夫・安達などの農村青年の演劇活動、河沼・田村・安達・相馬の合唱活動は、

昭和31年度芸術文化関係参加数

管内＼摘要	美術	音楽	文学	演劇
信夫	85	10	17	5
伊達	14	—	13	—
安達	23	3	2	1
安積	13	7	8	5
岩瀬	11	2	10	2
南会津	—	1	5	—
北会津	75	5	11	6
耶麻	9	1	5	—
両沼	8	4	11	1
西白河	12	1	9	2
東白川	—	—	2	2
石川	—	1	1	2
田村	2	2	5	—
石城	56	9	13	18
双葉	7	—	7	1
相馬	11	7	9	2
計	326	53	128	47
備考	東京に6外出品あり外よりまた招待あり			